

2018年3月期 第2四半期 決算説明会

2017年11月2日



© 2017 MARUBUN CORPORATION

「上期決算の概要」「通期の業績見通し」「中期経営計画の進捗」について説明します。

本日説明のポイント

■2018年3月期 上期業績

売上高 1,698億円（前年同期比 33.0%増）
経常利益 13億円（前年同期は 1.9億円の損失）

■2018年3月期 通期業績見通し

売上高 3,260億円（前期比 20.4%増）
経常利益 40億円（前期比 50.9%増）

■中期経営計画の進捗

デバイス事業

- 自動車・産業機器向けビジネスが順調に拡大
- 新規商材やグローバル展開で進展

システム事業

- レーザー機器を中心に取組みに成果

第2四半期の業績は、期初の予想を上回って着地しました。

売上高は、前年同期に比べ33.0%増の1,698億円、経常利益は前年同期の1億9千万円の損失から13億円の利益となりました。

通期業績の見通しについては、売上高は前期比20.4%増の3,260億円、経常利益は50.9%増の40億円の見込みです。

中期経営計画の進捗については、計画は順調に進んでいます。

2018年3月期 第2四半期 連結決算の概要

© 2017 MARUBUN CORPORATION

第2四半期の決算について説明します。

2018年3月期 上期 連結決算サマリ (前年同期比)

■売上高 1,698億円 (前年同期比 421億円増)

- デバイス事業 通信機器・産業機器・自動車、ゲーム機向け半導体の増加
- システム事業 電子部品組立検査装置、医用機器の減少

■営業利益 17億円 (前年同期は 4億円の損失)

- 販管費 退職給付費用の減少

■経常利益 13億円 (前年同期は 1.9億円の損失)

- 営業外費用 貸倒引当金の繰入

■純利益 3億円 (前年同期は 3億円の損失)

- 特別損失 投資有価証券評価損

第2四半期の決算について説明します。

連結売上高は、前年同期比421億円増の1,698億円となりました。

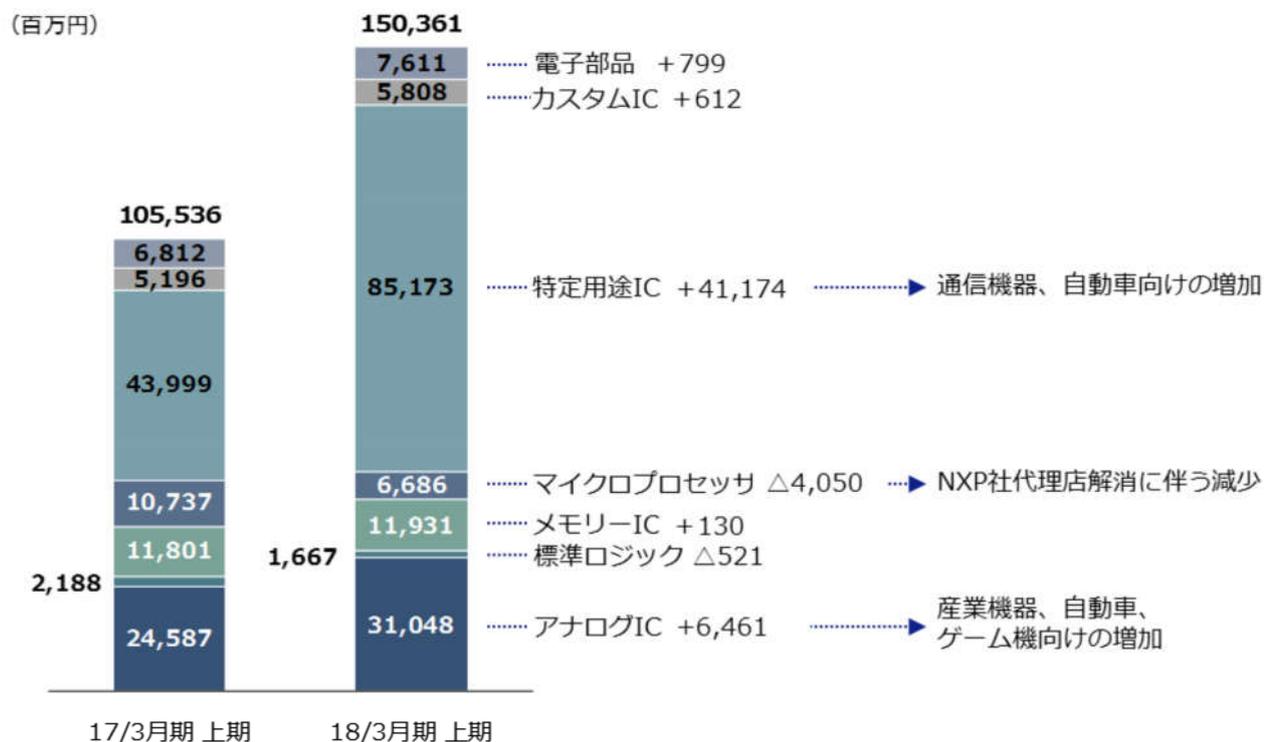
これは、通信機器向け半導体の需要が大幅に伸び、産業機器や自動車、ゲーム機向けの半導体も増加したことによるものです。

売上の増加に伴い、営業利益は前年同期の4億円の赤字から17億円の黒字に転換、経常利益も1億9千万円の赤字から13億円の黒字となりました。

2018年3月期 上期 業績サマリ

(百万円)	17/3月期 上期		18/3月期 上期			前年同期比		期初予想比
	実績	構成比	期初予想	実績	構成比	増減額	増減率	増減額
売上高	127,741	100.0%	125,000	169,875	100.0%	42,134	33.0%	44,875
デバイス事業	105,536	82.6%	104,500	150,361	88.5%	44,825	42.5%	45,861
システム事業	22,205	17.4%	20,500	19,513	11.5%	△ 2,692	-12.1%	△ 987
売上総利益	8,333	6.5%	9,500	10,272	6.0%	1,939	23.3%	772
販管費	8,768	6.9%	8,700	8,518	5.0%	△ 250	-2.9%	△ 182
人件費	5,464	4.3%	-	5,159	3.0%	△ 305	-5.6%	-
その他	3,304	2.6%	-	3,358	2.0%	54	1.6%	-
営業利益	△ 435	-0.3%	800	1,753	1.0%	2,188	-	953
営業外収益	462	0.4%	250	319	0.2%	△ 143	-31.0%	69
営業外費用	221	0.2%	250	757	0.4%	536	242.5%	507
経常利益	△ 194	-0.2%	800	1,314	0.8%	1,508	-	514
特別利益	0	0.0%	0	0	0.0%	0	-	0
特別損失	17	0.0%	50	211	0.1%	194	1141.2%	161
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△ 379	-0.3%	400	390	0.2%	769	-	△ 10
期末従業員数 (名)	1,438	-	-	1,408	-	△ 30	-2.1%	-

2018年3月期 上期『デバイス事業』品目別売上高



デバイス事業の売上は、前年同期の1,055億円から1,503億円へと大幅に伸長しました。増加したのはアナログICと特定用途ICです。

アナログICは、産業機器向け、自動車向け、ゲーム機向けが好調に推移しました。

特定用途ICは、通信機器向け半導体で需要が増加したことによるものです。

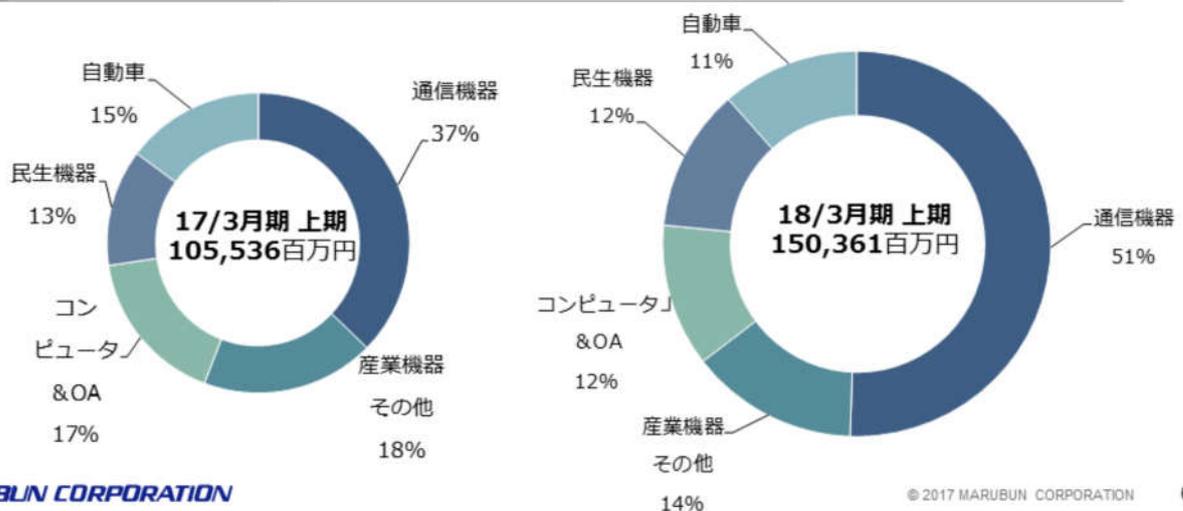
また自動車の車内通信向けも市場拡大により伸長しました。

一方減少した項目は、マイクロプロセッサです。

これは、今年2月にNXPセミコンダクターズ社と代理店契約を解消したことによるものです。

2018年3月期 上期 『デバイス事業』 用途別市場動向

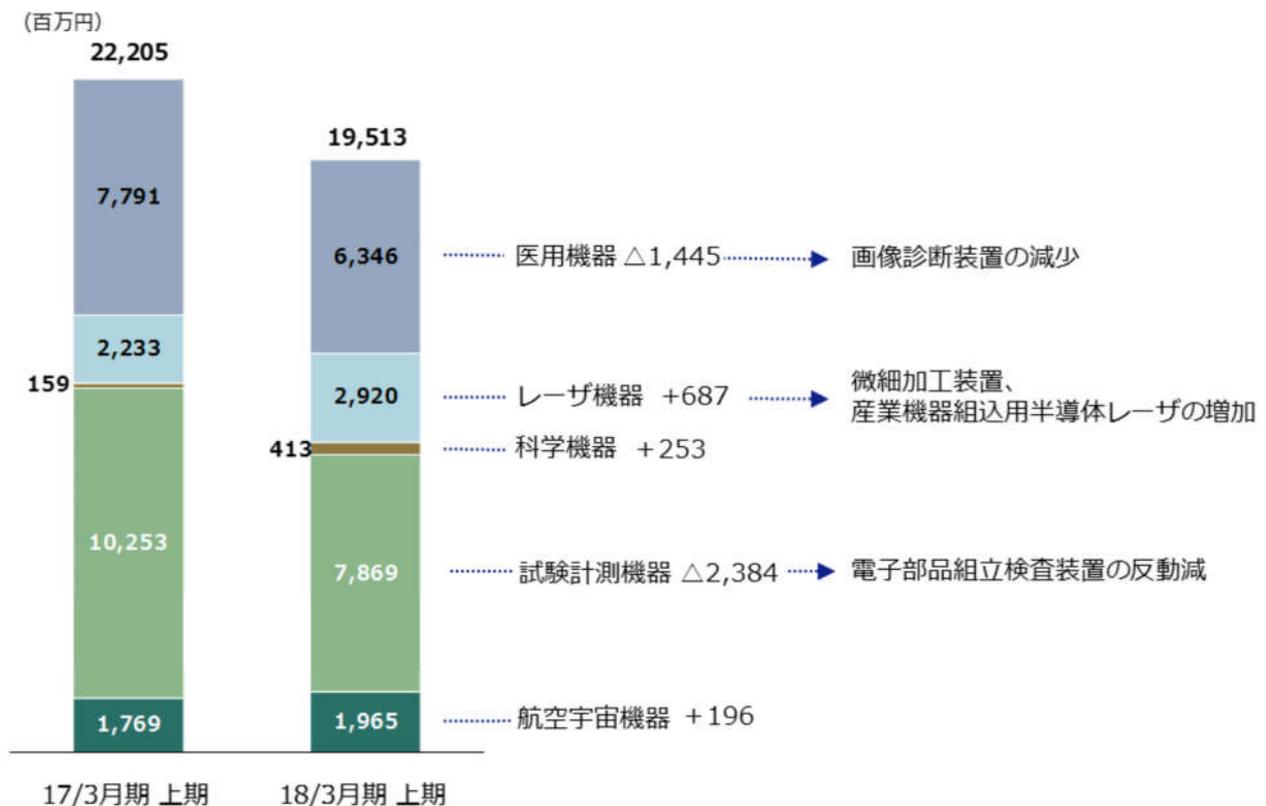
用途	市場動向
通信機器	大幅増加
産業機器その他	FA機器向けが増加
コンピュータ&OA	HDD向けが増加
民生機器	ゲーム機向けが増加
自動車	NXP代理店解消による減少、その他サプライヤは増加



デバイス事業を用途別で説明します。

シェアが減少しているのは自動車、産業機器、コンピュータOAですが、通信機器が大幅に増加したことにより相対的に低下しているもので、売上規模はいずれも増加しております。

2018年3月期 上期『システム事業』品目別売上高



MARUBUN CORPORATION

© 2017 MARUBUN CORPORATION

7

システム事業の売上は、前年同期の222億円から195億円に減少しました。

減少したのは、試験計測機器と医用機器です。

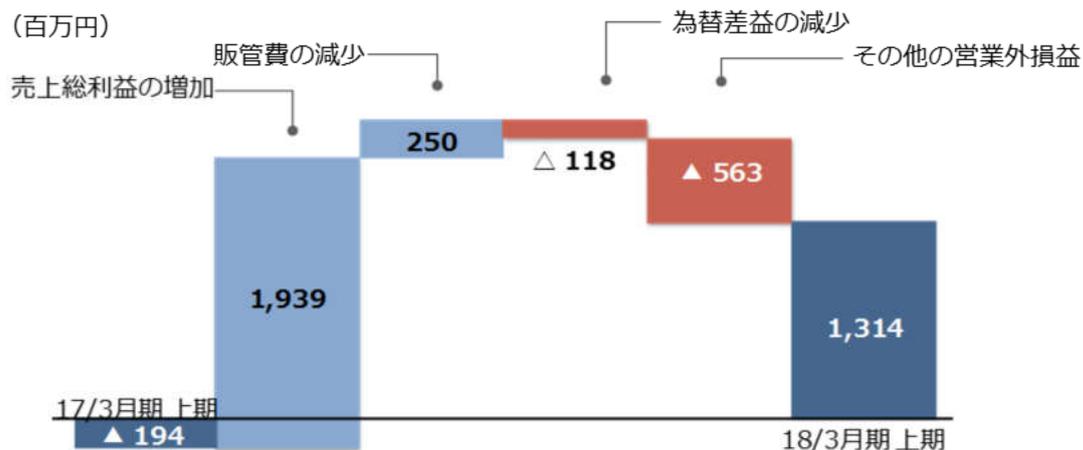
試験計測機器は、昨年好調だった電子部品組立検査装置の反動減で減少しました。

医用機器については、MRIやCTなど画像診断装置が減少しました。

一方、増加したのは、航空宇宙機器、科学機器、レーザ機器です。

レーザ機器は、微細加工装置や産業機器組込み用半導体レーザが好調に推移しました。

2018年3月期 上期 経常利益の増減要因



売上総利益	売上増による売上総利益の増加 17/3月期 上期：83億円（利益率6.5%）→18/3月期 上期：102億円（6.0%）
販管費	退職給付費用の減少 17/3月期 上期：87億円 → 18/3月期 上期：85億円
営業外損益	為替差益の減少 17/3月期 上期：差益1.2億円 → 18/3月期 上期：差益6百万円 支払利息の増加 17/3月期 上期：1.2億円 → 18/3月期 上期：2.8億円 貸倒引当繰入 17/3月期 上期：無し → 18/3月期 上期：3.6億円

経常利益の増減要因について説明します。

売上総利益は、売上の増加により19億円増加しました。

販管費は、退職給付費用の減少などにより、2億5千万円減少しました。

営業外収益では、為替差益が1億2千万円から6百万円に減少しました。

一方、営業外費用では、支払利息が1億5千万円増加したほか、貸倒引当金繰入3億6千万円を計上しました。

この結果、経常利益は13億円となりました。

2018年3月期 上期 貸借対照表の概要

(百万円)	17/3月期末 実績	18/3月期 上期末 実績	前期末比 増減額	主な増減理由	
資産合計	125,984	144,773	18,789	現金及び預金	3,256
流動資産	113,711	132,509	18,798	受取手形及び売掛金	12,930
固定資産	12,273	12,263	△ 10	商品及び製品	3,709
負債合計	78,434	97,367	18,933	支払手形及び買掛金	2,184
流動負債	67,272	86,334	19,062	短期借入金	17,495
固定負債	11,161	11,032	△ 129		
純資産合計	47,550	47,406	△ 144	株主資本	27
				その他の包括利益累計額	△ 135
				非支配株主持分	△ 36

貸借対照表の概要を説明します。

総資産は、前期末に比べ187億円増加しました。

受取手形及び売掛金の増加は、通信機器向け半導体の売上増加に伴うものです。

負債については、前期末に比べ189億円増加しました。

これは運転資金の増加に伴う短期借入金の増加によるものです。

2018年3月期 上期 キャッシュフロー計算書の概要

(百万円)	17/3月期 上期 実績	18/3月期 上期 実績	内訳	
			税金等調整前純利益	1,104
営業活動による キャッシュ・フロー	△ 6,505	△ 12,672	売上債権の増加	△ 13,240
			たな卸資産の増加	△ 4,000
			仕入債務の増加	2,340
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 607	△ 557	有形固定資産の取得による支出	△ 118
			無形固定資産の取得による支出	△ 386
フリー・キャッシュ・フロー	△ 7,112	△ 13,229		
財務活動による キャッシュ・フロー	5,143	16,564	短期借入金の純増	17,158
現金及び現金同等物の増減額	△ 3,072	3,316		
現金及び現金同等物の期末残高	10,629	15,489		

キャッシュフロー計算書の概要を説明します。

営業キャッシュフローは、126億円の資金の流出となりました。

これは税引前当期純利益が11億円だった一方で、売上債権や棚卸資産が増加したことによるものです。

投資キャッシュフローは、情報システム投資に伴う無形固定資産の取得による支出などにより5億円の資金流出となりました。

この結果、フリーキャッシュフローはマイナス132億円となりました。

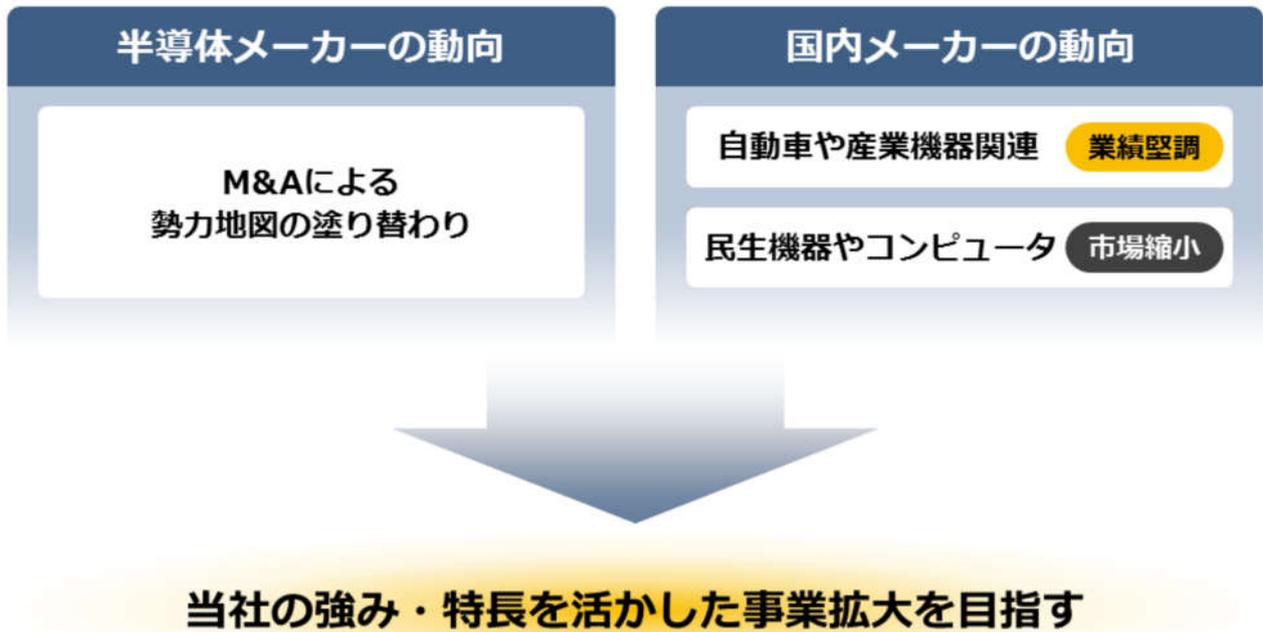
これに対応する財務キャッシュフローは、短期借入金の増加により、165億円の資金の流入となりました。

以上の結果、現金及び現金同等物の期末残高は154億円となりました。

中期経営計画 事業戦略と重点施策

© 2017 MARUBUN CORPORATION

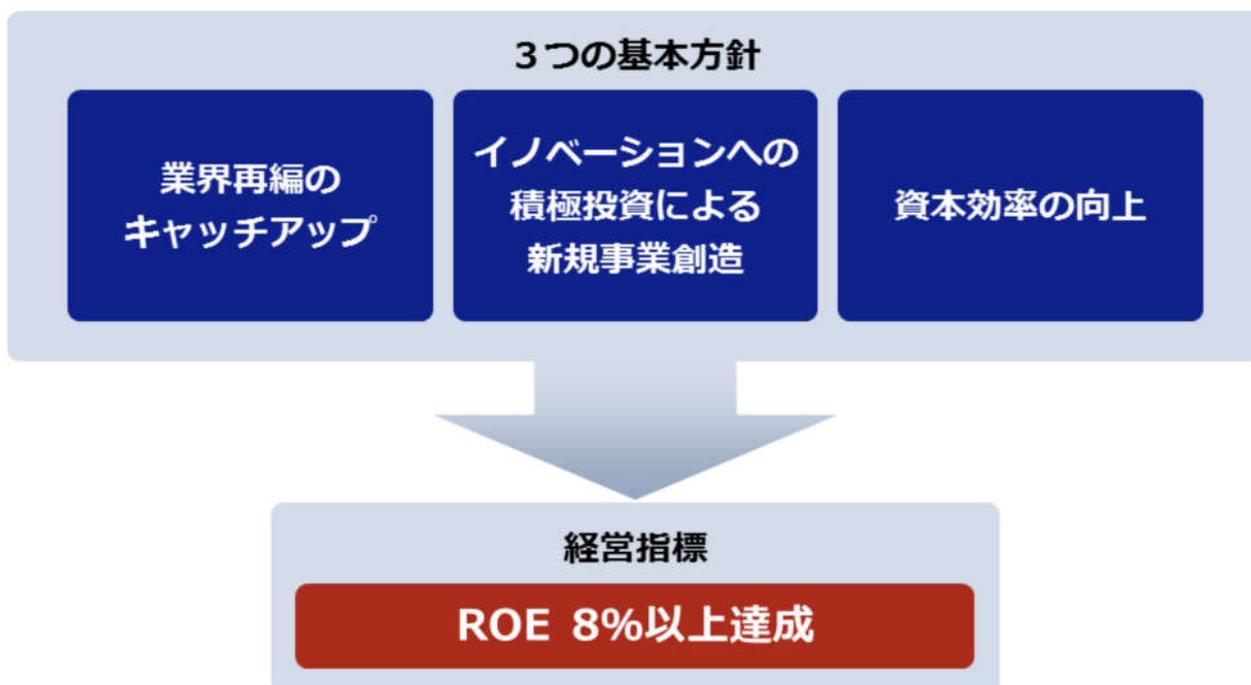
事業環境



ここ数年の大きな流れである、M&Aによる世界的な半導体メーカーの勢力地図の塗り替わりが続いています。

当社の主要顧客である国内メーカー向けの販売状況も、自動車や産業機器が比較的堅調に推移している一方で、民生機器やコンピュータは市場規模が縮小している状況が続いています。

2016-2018年度 中期経営計画方針



このような状況のなか、当社は、2019年3月期を最終年度とする中期経営計画で、基本方針として、「業界再編へのキャッチアップ」、「イノベーションへの積極投資による新規事業創造」、「資本効率の向上」を掲げ、経営指標としては、ROE8%以上の達成を目指し、積極果敢に経営を推進しております。

『デバイス事業』 4つの取り組み



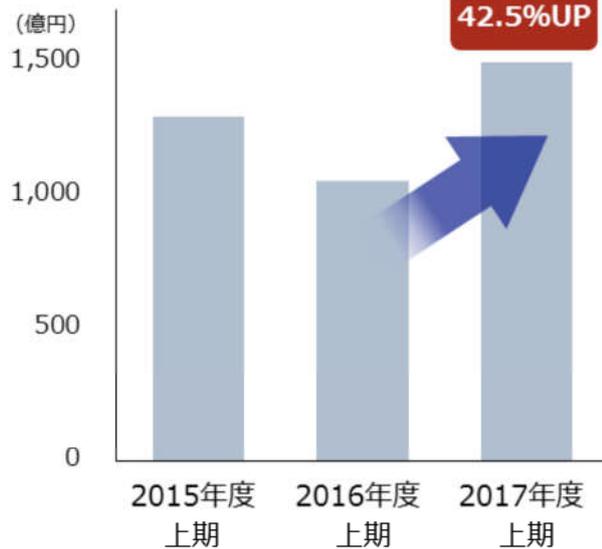
デバイス事業では、「ベースビジネスの強化」、「成長市場での事業強化」、「新規商材の事業化推進」、「グローバル展開の加速」の4つの取り組みを進めています。

『デバイス事業』 上期の概況

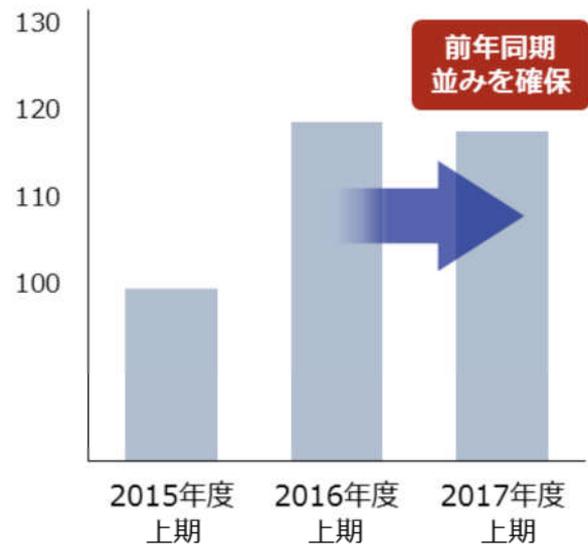
■ 売上は大幅増加、新規案件発掘数も前年並みを確保

- 今年2月末にNXP社との代理店契約を解消したが他ビジネスが伸長

デバイス事業の売上推移



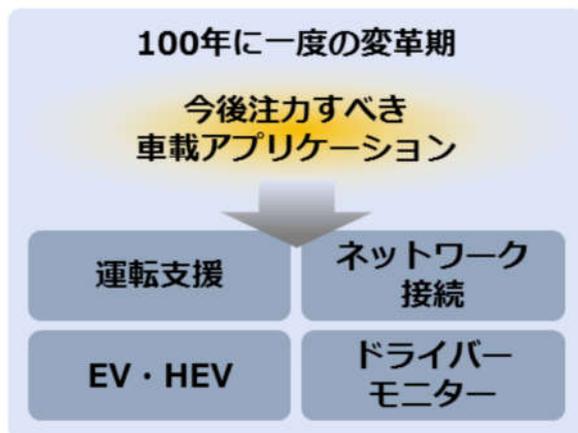
新規案件発掘数の伸び (2015年度上期を100とした推移)



今年度上期の概況では、今年2月末にNXP社との代理店契約を解消した影響が懸念されましたが、結果的に他のビジネスの伸長により、売上は大幅に増加、新規案件発掘数も前年同期並みを確保することができました。

① ベースビジネスの強化

自動車市場



産業機器市場

- ▶ (株)ケイティーエルを子会社化
顧客基盤拡大・工作機器やサーボ
モーター向けの需要増加

自動車市場向け売上高の推移



デバイス事業の4つの取り組みの上期の状況をご説明致します。

「ベースビジネスの強化」では、特に自動車・産業機器市場に注力しています。

自動車市場については、100年に一度の変革期と言われ、新技術の開発、導入が加速しています。

当社では、運転支援やネットワーク接続、EV・HEV、ドライバーモニターなどを今後注力すべき車載アプリケーションと捉え、商材の拡充やソリューション強化、顧客との関係構築に取り組んでいます。

また、産業機器向けでは、昨年度、Texas Instruments社の代理店であるケイティーエルを子会社化したことにより顧客基盤が広がり、工作機器やサーボモーター向けの需要が大きく増加しています。

② 成長市場での事業強化

IoT ビジネスの強化



「成長市場での事業強化」では、IoTでの取り組みを強化しています。

5月の説明会でご紹介したAfero社のIoTプラットフォームやMC10社のバイオセンサーなどのユニークな新規商材と、当社オリジナルのセンサーモジュールやマイコン、無線通信技術を組み合わせたソリューションの提案を推進し、新たな市場を開拓しています。

③ 新規商材の事業化推進

次世代・最先端のテクノロジーに着目

FINSix社

- PC向け小型電源アダプタ「Dart」の販売を国内で開始



Cypress社

- IoT向け無線製品の売上が伸長
- 他商材も拡販し、ビジネスを拡大

Eink社

- 家電見本市 CEATECで紹介
 - 電子コミック「北斗の拳」
- 電子楽譜などにも採用、用途が広がる

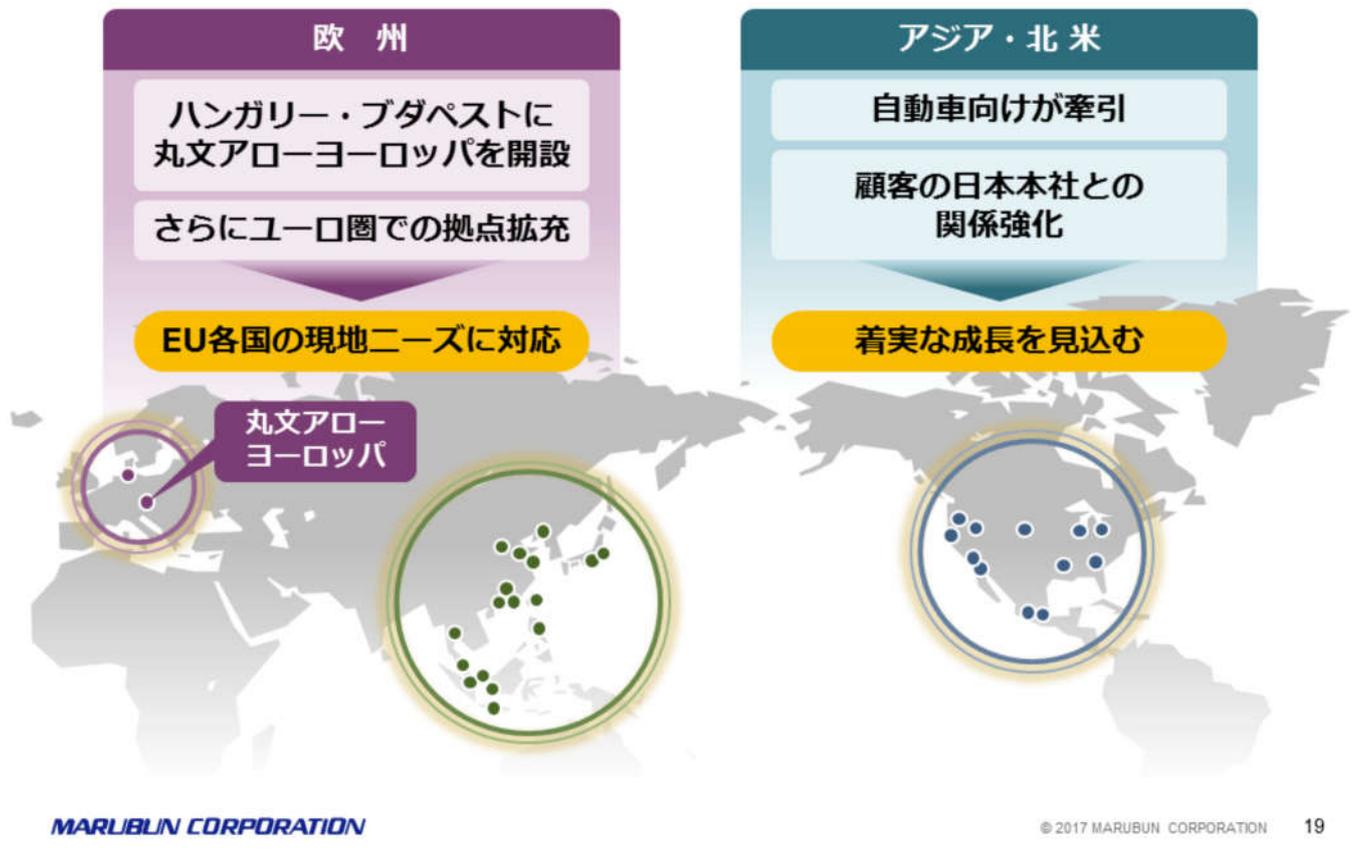
「新規商材の事業化推進」については、FINSix社の小型電源技術を用いたPC向け電源アダプタ「Dart」の販売を国内で開始したことをトピックスとしてご紹介します。

8月にクラウドファンディングを通じて先行予約を開始したところ、予想を大幅に上回る申し込みを頂き、10月からはアマゾンを通じて一般販売を開始しており売れ行きは順調です。この電源技術は、民生機器やPCメーカーなどへの組込み製品でも商談が進行中で、今後の展開を大いに期待しています。

また昨年より取扱いを開始したBroadcomのIoT部門を買収したCypress社製品は、自動車向けIoT製品を中心として売上が伸長しており、今後はマイコン等他の商材の拡販も進めてまいります。

Eink社の電子ペーパーについては先月開催された家電見本市CEATECで紹介された電子コミックに搭載されました。電子楽譜などにも採用され、用途が広がっています。

④ グローバル展開の加速

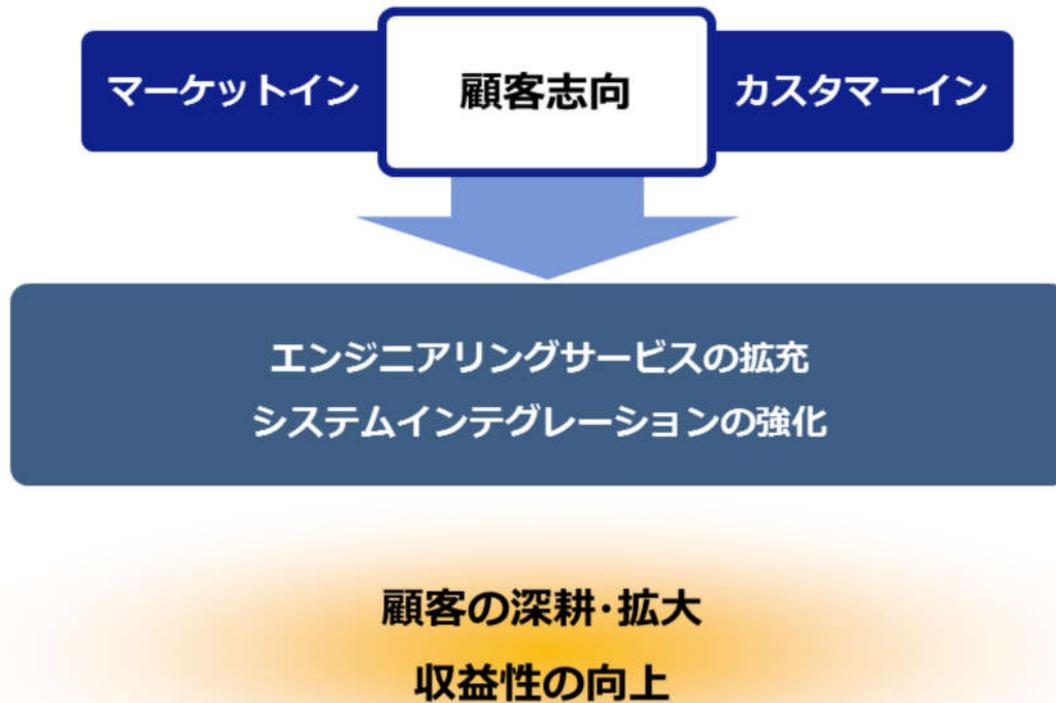


「グローバル展開の加速」では、これまで欧州において、今年度中にもオフィスを開設できる見込みとご説明して参りましたが、先日、プレスリリースしましたように、丸文アローヨーロッパを開設し、今月から営業を開始します。

ヨーロッパはかねてより、日系の自動車関連企業を中心に、当社のサポートを強くご要望頂いておりましたが、その第一歩としてハンガリー・ブダペストに拠点を開設しました。ハンガリーを皮切りに順次、ユーロ圏内での拠点の拡充を進めていく計画です。

持分法適用会社ではある丸文アローUSAを中心とした北米事業は、引き続き自動車向けが好調で事業をけん引しており今後も着実な成長を見込んでいます。

『システム事業』の取り組み



システム事業では、「マーケットインとカスタマーイン」の「顧客志向」をベースにして、「エンジニアリングサービスの拡充」や「システムインテグレーションの強化」に取り組んでおります。

昨年度は、システム事業では過去最高水準の営業利益を記録しました。

今年度も通期で、前期の売上・利益を上回る業績となる見通しです。

『システム事業』 分野別の取り組み

レーザ機器

- オリジナルシステムの製造・販売
 - 微細加工装置や焼き入れ装置など
- 民生機器や自動車向けで需要拡大



情報通信機器

- 通信インフラ市場に販売を推進
 - タイムサーバやGPSシミュレータなどの機器販売
- コンサルテーション業務を本格的に開始
 - 大手キャリアに5Gのインフラ構築を支援



レーザ機器では、エンジニアリング子会社であるフォーサイトテクノが、微細加工装置や焼き入れ装置などを独自に製造、当社が民生機器や自動車製造などの市場に向けて販売することで、受注が着実に増加しています。

情報通信機器では、東京オリンピックに向けて拡大が見込まれる通信インフラ市場に対して、タイムサーバやGPSシミュレータなどの機器販売を推進しております。

今年度からはコンサルテーション業務を本格的に開始し、お客様の5Gインフラ構築を支援することで、業界での地位確立と事業拡大に取り組んでまいります。

さらにはICT化が急激に進む自動車市場にも参入し、自動車のネットワーク接続、いわゆるV2X分野にもタイミング同期やGPSシミュレータなどの製品販売を開始しました。

『システム事業』分野別の取り組み

航空宇宙機器

- 高信頼性部品の受注促進
- 商品ラインアップの拡充
 - 人工衛星用の太陽電池パネルの販売

医用機器

- 池田医療電機を丸文通商に合併
 - 一体運営による営業力強化
- 取り扱い製品を拡充
- 保守・メンテナンス機能の強化

航空宇宙機器では、人工衛星に使用される半導体などの高信頼性部品の受注促進に取り組んでいますが、新たに人工衛星用の太陽電池パネルの販売を手掛けるなど、商品ラインアップの拡充も進めています。

医用機器では、今年4月に池田医療電機を丸文通商に統合し、一体運営で新潟県内での販売、保守サービスを強化。より幅広い製品群と高品質の保守サービスを提供するとともに、引き続きエリアの拡大による事業規模の拡大も図っていく方針です。

2018年3月期 業績予想の概要

© 2017 MARUBUN CORPORATION

通期の業績見通しについて説明します。

2018年3月期 業績予想サマリ

■売上高 3,260億円（前期比 553億円増、期初予想比 660億円増）

- デバイス事業 通信機器、産業機器、ゲーム機向けの増加
- システム事業 レーザ機器、航空宇宙機器の増加、医用機器の減少

■営業利益 45億円（前期比 16億円増、期初予想比 10億円増）

- 売上総利益 売上増加による増加。売上総利益率は低下
- 販管費 退職給付費用の減少

■経常利益 40億円（前期比 13億円増、期初予想比 7億円増）

■当期純利益 20億円（前期比 4億円増、期初予想比 2増）

通期の業績は売上・利益ともに上方修正を発表しました。

売上高は、期初予想では前期比106億円の減収を見込んでいたものの、660億円上振れて3,260億円となる見込みです。

これはデバイス事業で通信機器、産業機器、ゲーム機向けの伸長を見込んでいること、またシステム事業でも上期は減収とご説明しましたが、通期では増収に転じることによるものです。

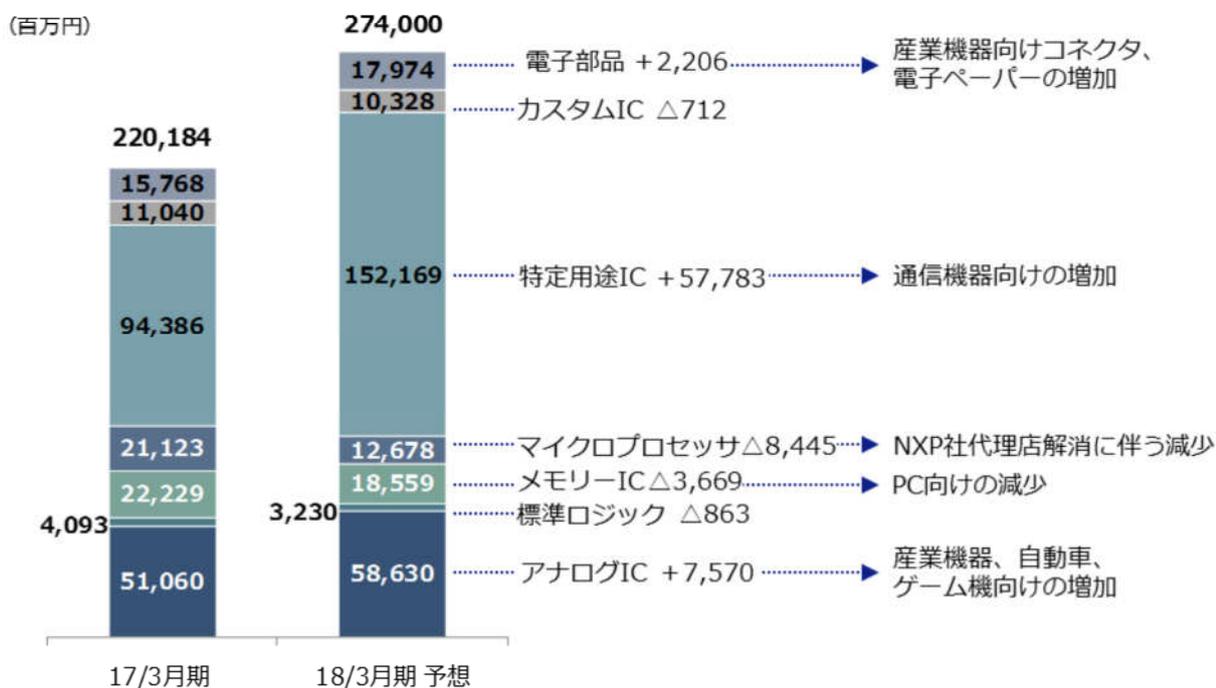
売上の増加により、経常利益は期初予想では33億円を予想していましたが、7億円上振れて40億円となる見込みです。

前期比では、売上高は553億円増、経常利益は13億円増となる見通しです。

2018年3月期 業績予想サマリ

(百万円)	17/3月期		18/3月期			前期比		期初予想比
	実績	構成比	期初予想	修正予想	構成比	増減額	増減率	増減額
売上高	270,698	100.0%	260,000	326,000	100.0%	55,302	20.4%	66,000
デバイス事業	220,184	81.3%	210,000	274,000	84.0%	53,816	24.4%	64,000
システム事業	50,513	18.7%	50,000	52,000	16.0%	1,487	2.9%	2,000
売上総利益	20,612	7.6%	21,000	21,900	6.7%	1,288	6.2%	900
販管費	17,729	6.5%	17,500	17,400	5.3%	△ 329	-1.9%	△ 100
営業利益	2,883	1.1%	3,500	4,500	1.4%	1,617	56.1%	1,000
営業外収益	705	0.3%	450	700	0.2%	△ 5	-0.7%	250
営業外費用	937	0.3%	650	1,200	0.4%	263	28.1%	550
経常利益	2,651	1.0%	3,300	4,000	1.2%	1,349	50.9%	700
特別利益	1	0.0%	0	0	0.0%	△ 1	-	0
特別損失	65	0.0%	50	250	0.1%	185	284.6%	200
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,650	0.6%	1,850	2,050	0.6%	400	24.2%	200

2018年3月期『デバイス事業』品目別売上高予想



MARUBUN CORPORATION

© 2017 MARUBUN CORPORATION 26

デバイス事業は前年度の2,201億円から2,740億円に増加する見込みです。

増加するのは、アナログICや特定用途IC、電子部品です。

アナログICは、産業機器、自動車、ゲーム機向けの増加を見込んでいます。

特定用途ICは、上期に引き続き、通信機器向けの増加を見込んでいます。

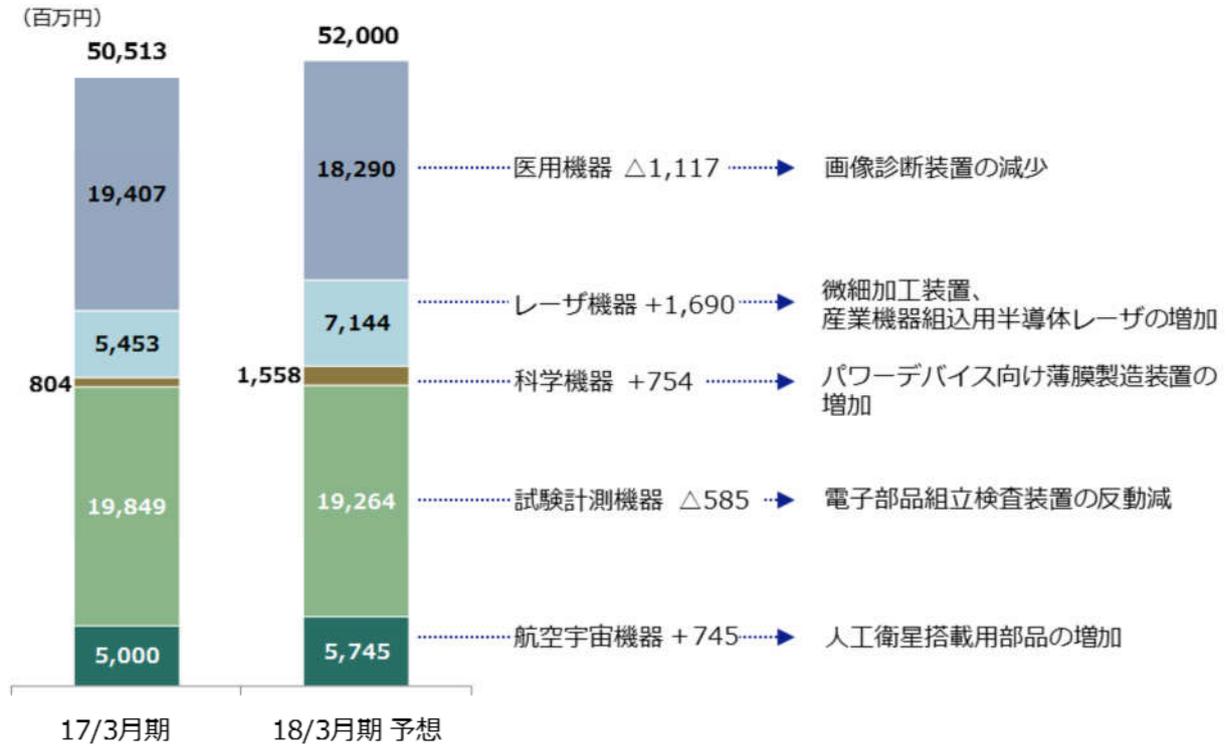
電子部品は、産業機器向けコネクタや電子ペーパーの増加を見込んでいます。

一方、メモリーICとマイクロプロセッサは減少する見通しです。

メモリーICはPC向けで減少を見込んでいます。

マイクロプロセッサの減少は、NXPセミコンダクターズ社との代理店契約解消によるものです。

2018年3月期『システム事業』品目別売上高予想



システム事業ですが、上期では前年同期比で減少しましたが、通期では前年度の505億円から520億円へと増加を見込んでいます。

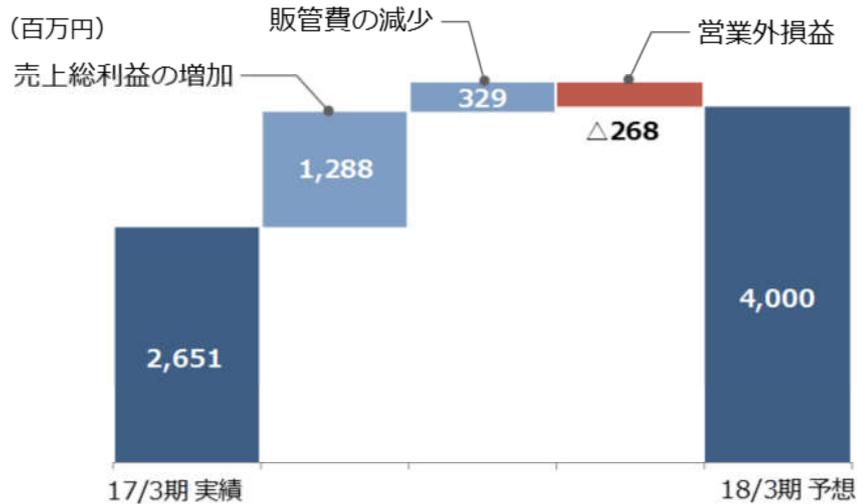
航空宇宙機器は、人工衛星搭載用部品の増加を見込んでいます。

レーザー機器は、上期に引き続き、微細加工装置や産業機器組込み用半導体レーザーの増加を見込んでいます。

試験計測機器は、電子部品組立検査装置の反動減を見込んでおりますが、上期は23億円の減少となったものの、通期では5億円の減少に縮小する見込みです。

医用機器も画像診断装置が減少する見通しです

経常利益の増減要因（前期 vs. 予想）



売上総利益	売上増加による総利益の増加 17/3月期：206億円(利益率7.6%) → 18/3月期予想：219億円(6.7%)
販管費	退職給付費用の減少 17/3月期：177億円 → 18/3月期予想：174億円
営業外損益	貸倒引当繰入 17/3月期：無し → 18/3月期予想：3.6億円

経常利益の増減要因について説明します。

売上総利益については、売上の増加により前年度より12億円増加を見込んでいます。

販管費の減少は、退職給付費用の減少によるものです。

営業外費用では、上期に計上した貸倒引当金繰入3億円に加え、支払利息の増加を見込んでおります。

この結果、経常利益は13億円増加の40億円を予想しています。

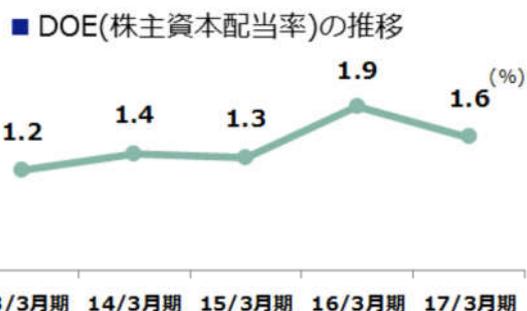
株主還元

© 2017 MARUBUN CORPORATION

株主還元

■ 配当方針

配当性向 連結 30% 以上



■ 配当予想

■ 70周年記念配当を予定（10/31日公表）

(円)	17/3月期	18/3月期 (予想)
1株当たり年間配当金	25.00	30.00
中間配当	10.00	10.00
期末配当	15.00	20.00 (普通配当 15.00) (記念配当 5.00)

株主の皆様への利益還元ですが、当社は、連結配当性向30%以上を目安として配当を決定しています。

また、おかげさまで当社今年7月に、会社設立70周年を迎えることができました。

これもひとえに株主の皆様をはじめとする関係各位のご支援の賜物と心より感謝申し上げます。

株主の皆様への感謝の意を表すため、期末配当で1株あたり5円の記念配当を実施する予定です。

これにより、今期の期末配当金は、1株当たり普通配当15円、記念配当5円の合計20円とし、中間配当と合わせて年間で30円を予定しています。

参考情報

企業概況

会社概要

創業	1844年（弘化元年）
設立	1947年（昭和22年）7月
所在地	東京都中央区日本橋大伝馬町8番1号
資本金	62億1,450万円
決算期日	3月31日
代表者	代表取締役社長 水野象司
売上高	連結 2,706億円（2017年3月期） 単体 1,594億円（2017年3月期）
従業員数	連結 1,397名（2017年3月末） 単体 671名（2017年3月末）
株式上場	東京証券取引所 市場第一部（コード:7537）

事業領域

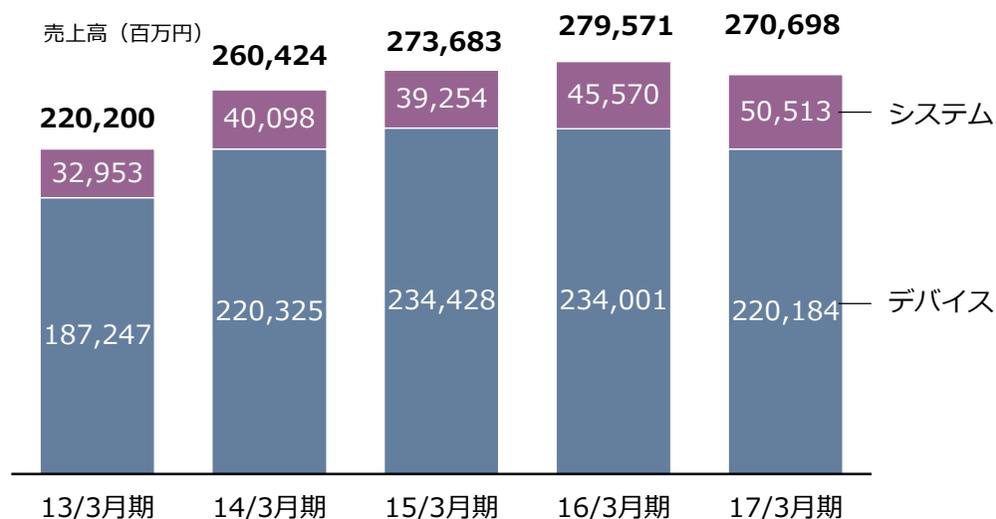
デバイス事業

- 半導体
- 電子部品

システム事業

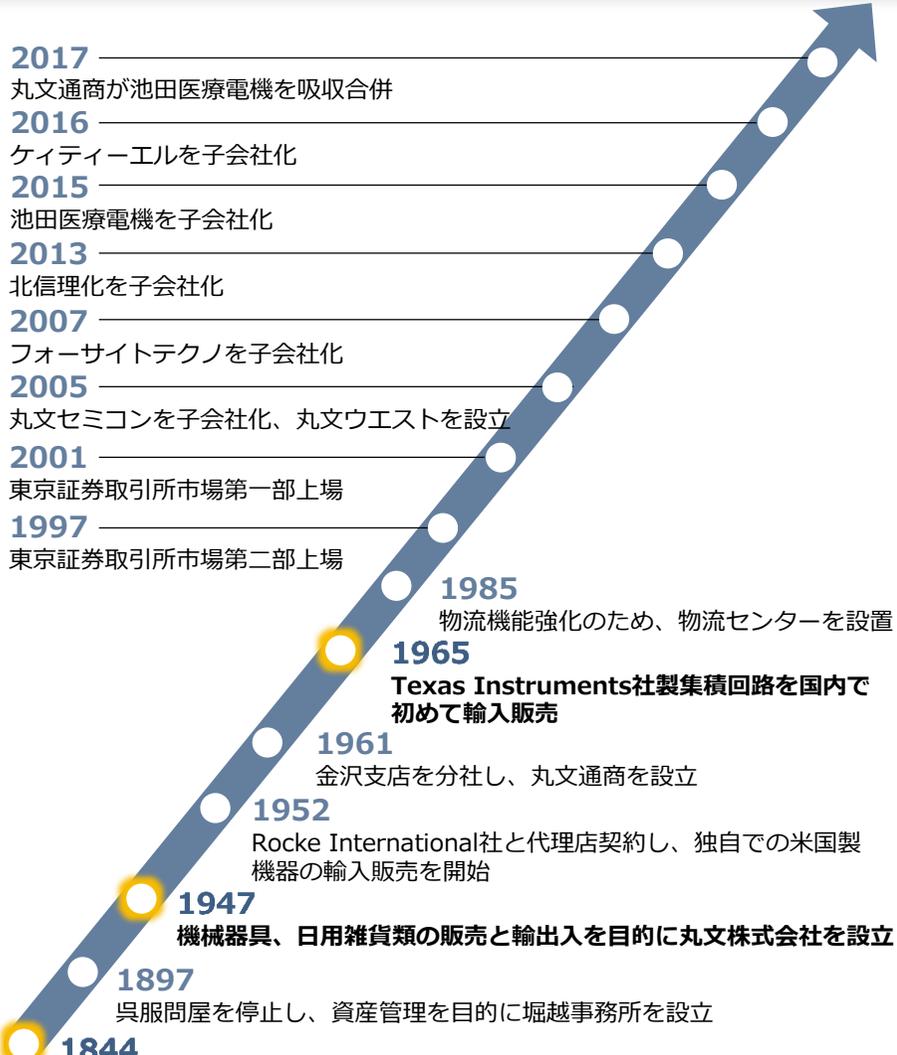
- 航空宇宙機器
- 試験計測機器
- 科学機器
- レーザ機器
- 医用機器

連結売上高の推移

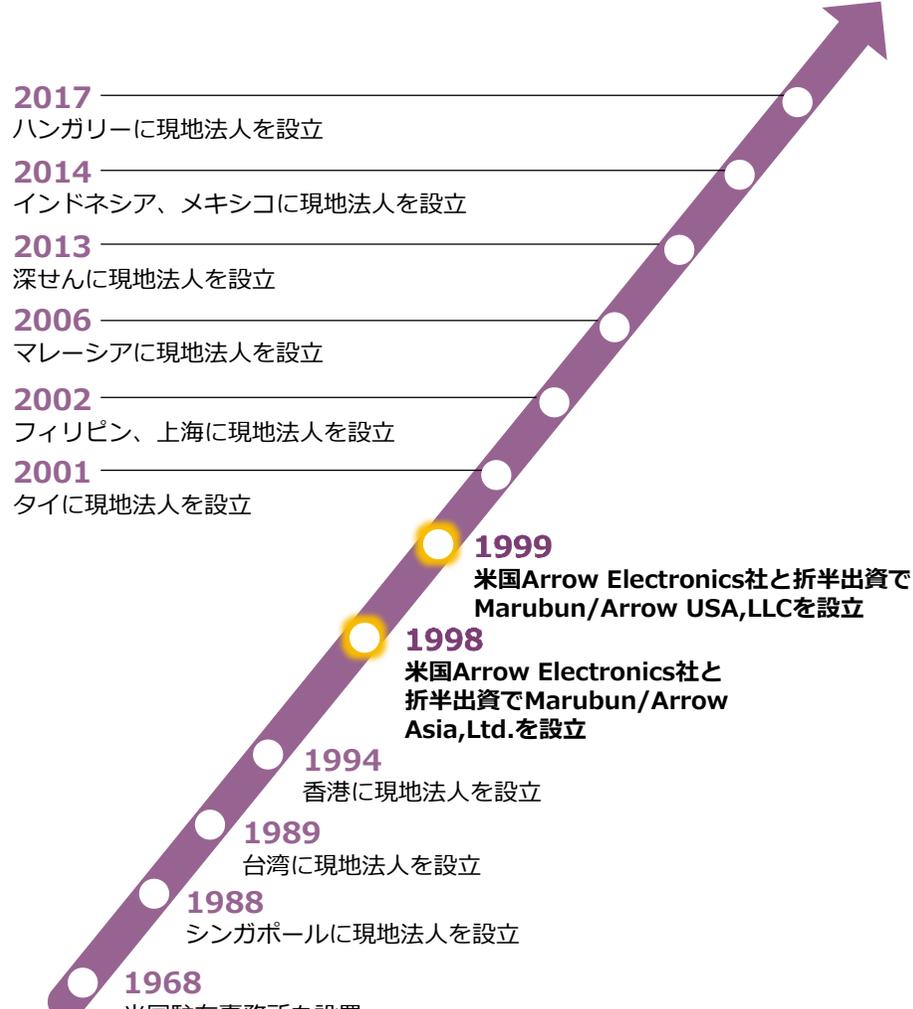


沿革

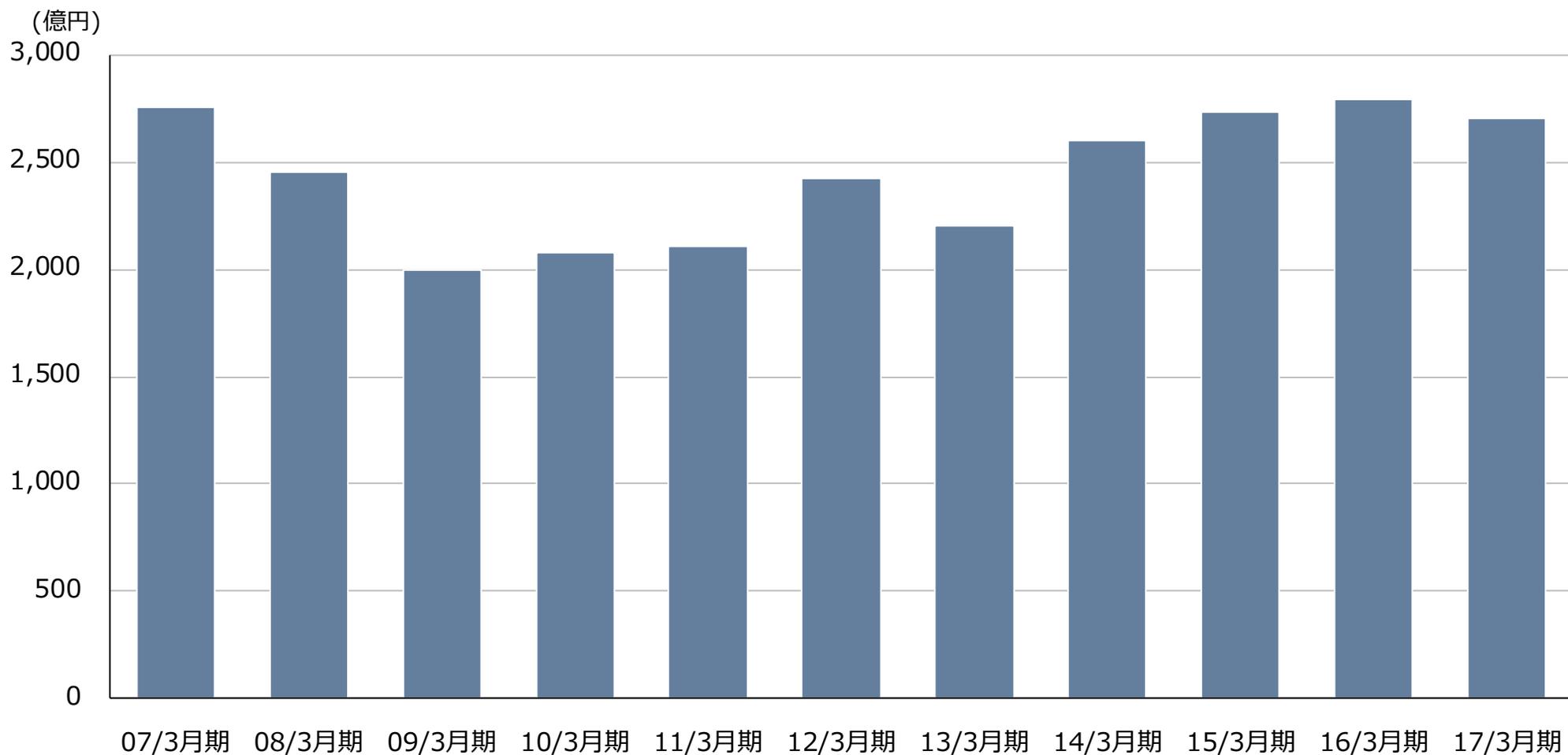
国内

- 
- 2017 丸文通商が池田医療電機を吸収合併
 - 2016 ケイティーエルを子会社化
 - 2015 池田医療電機を子会社化
 - 2013 北信理化を子会社化
 - 2007 フォーサイトテクノを子会社化
 - 2005 丸文セミコンを子会社化、丸文ウエストを設立
 - 2001 東京証券取引所市場第一部上場
 - 1997 東京証券取引所市場第二部上場
 - 1985 物流機能強化のため、物流センターを設置
 - 1965 Texas Instruments社製集積回路を国内で初めて輸入販売
 - 1961 金沢支店を分社し、丸文通商を設立
 - 1952 Roche International社と代理店契約し、独自の米国製機器の輸入販売を開始
 - 1947 機械器具、日用雑貨類の販売と輸出入を目的に丸文株式会社を設立
 - 1897 呉服問屋を停止し、資産管理を目的に堀越事務所を設立
 - 1844 現本社所在地で呉服問屋「堀越」（屋号「丸文」）を創業

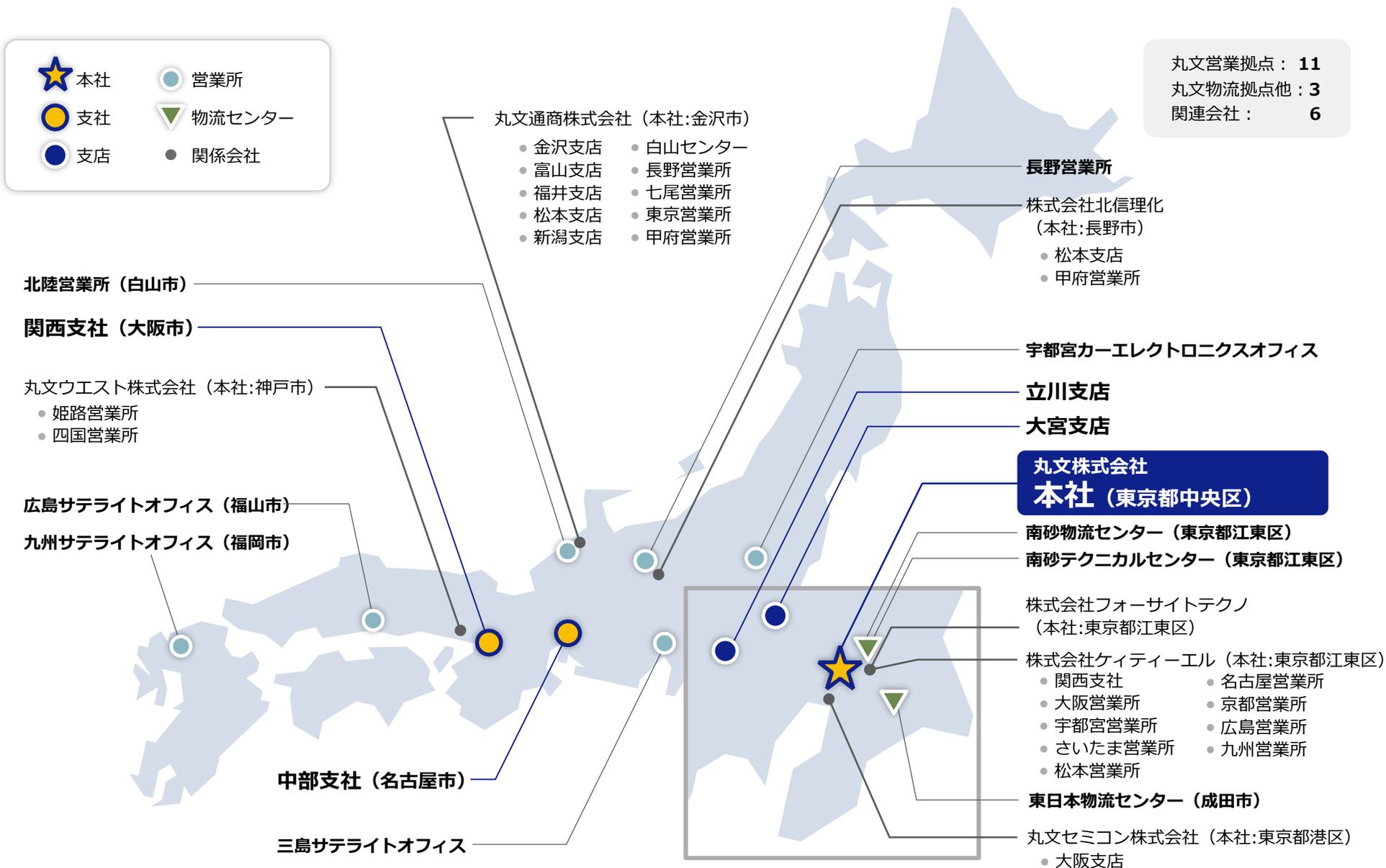
海外

- 
- 2017 ハンガリーに現地法人を設立
 - 2014 インドネシア、メキシコに現地法人を設立
 - 2013 深せんに現地法人を設立
 - 2006 マレーシアに現地法人を設立
 - 2002 フィリピン、上海に現地法人を設立
 - 2001 タイに現地法人を設立
 - 1999 米国Arrow Electronics社と折半出資でMarubun/Arrow USA,LLCを設立
 - 1998 米国Arrow Electronics社と折半出資でMarubun/Arrow Asia,Ltd.を設立
 - 1994 香港に現地法人を設立
 - 1989 台湾に現地法人を設立
 - 1988 シンガポールに現地法人を設立
 - 1968 米国駐在事務所を設置

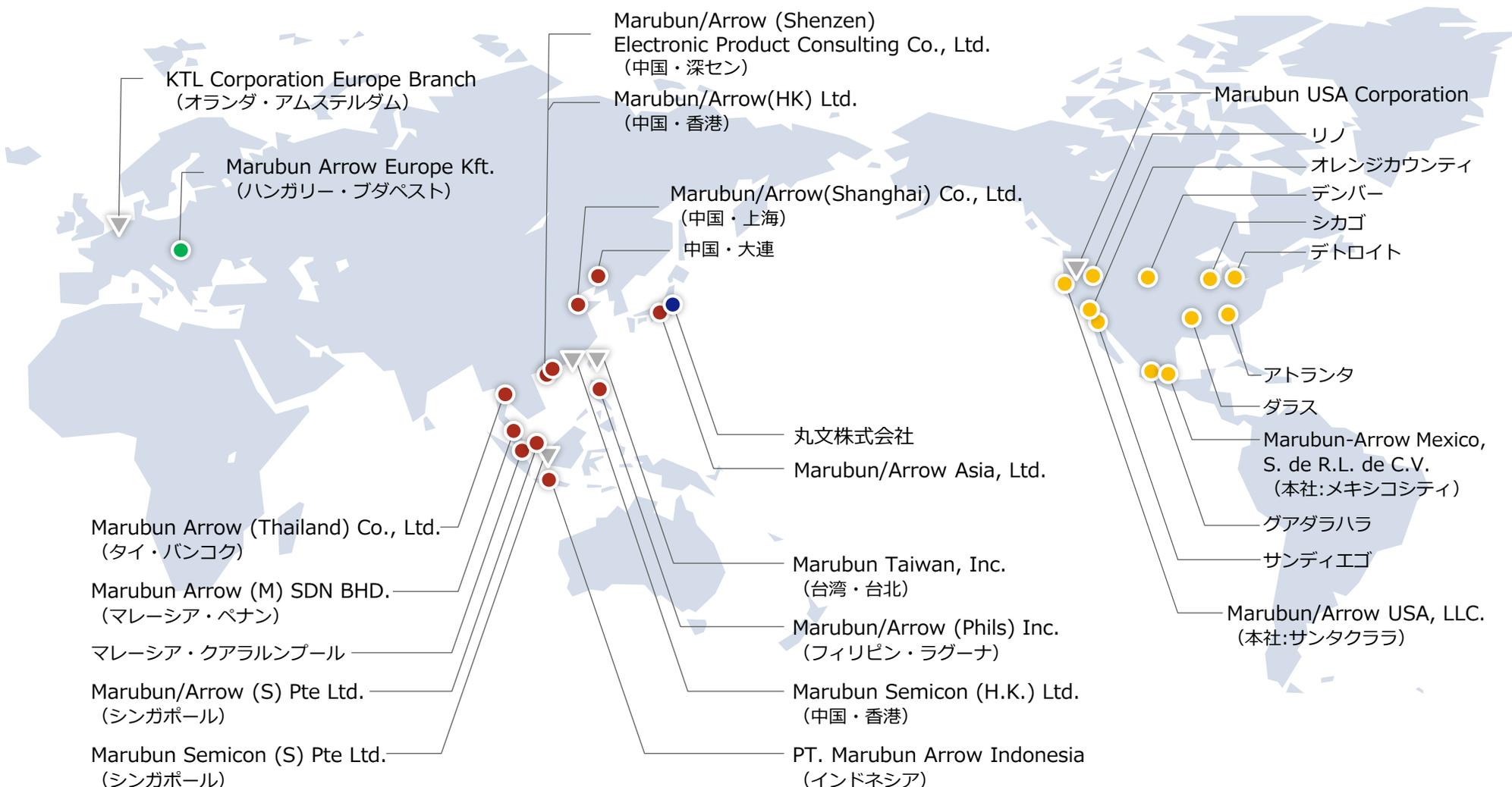
中長期売上トレンド



国内拠点



グローバルネットワーク



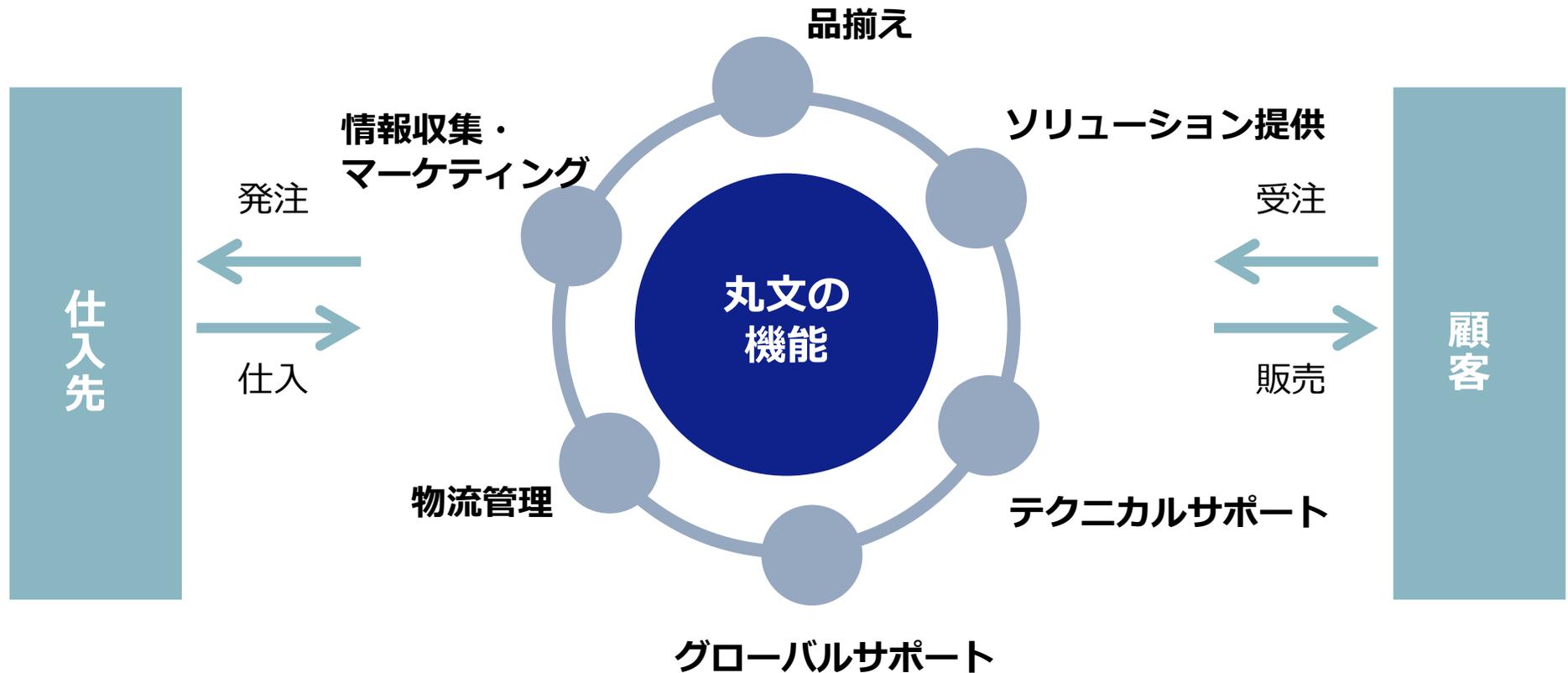
● 丸文株式会社 ● Marubun/Arrow Asia, Ltd. ● Marubun/Arrow USA, LLC. ● Marubun Arrow Europe Kft. ▽ その他

アジア拠点 : 14
 北米拠点 : 12
 欧州拠点 : 2

(2017年11月現在)

デバイス事業：特徴と強み

- 海外サプライヤを中心とした豊富な品揃え
- 米国アロー社(90ヶ国、465拠点)との提携によるグローバルネットワーク
- 高度な技術力をもとにしたソリューション提案力
- 強固な顧客基盤



デバイス事業：グループ会社概要

社名	住所	設立年月	出費比率	事業内容
丸文セミコン株式会社	東京都港区	2005年3月	100.0%	サムスン電子製半導体・電子部品の仕入販売
Marubun Semicon (H.K.) Ltd.	Hong Kong, China	2010年1月	100.0%	
Marubun Semicon (S) Pte. Ltd.	Alexandra Road, Singapore	2013年11月	100.0%	
Marubun USA Corporation	California, U.S.A.	1983年10月	100.0%	丸文アローUSAの持株会社
Marubun Taiwan, Inc.	Taipei, Taiwan	1989年11月	100.0%	台湾製デバイスの仕入販売
Marubun/Arrow Asia, Ltd.	British Virgin Islands	1998年10月	50.0%	丸文アローシンガポール、丸文アロー香港の持株会社
Marubun/Arrow (S) Pte Ltd.	Anson Road, Singapore	1988年3月	50.0%	海外進出した日系企業への半導体・電子部品の仕入販売
Marubun/Arrow (HK) Ltd.	Hong Kong, China	1994年8月	50.0%	
Marubun Arrow (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	2000年10月	50.0%	
Marubun/Arrow (Phils), Inc.	Laguna, Philippines	2001年10月	50.0%	
Marubun Arrow (M) SDN BHD	Penang, Malaysia	2006年6月	50.0%	
Marubun/Arrow (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2002年9月	50.0%	
Marubun/Arrow (Shenzhen) Electronic Product Consulting Co.,Ltd.	Shenzhen, China	2013年6月	50.0%	
PT. Marubun Arrow Indonesia	Jakarta, Indonesia	2014年4月	50.0%	
Marubun/Arrow USA, LLC*	Delaware, U.S.A.	1998年11月	50.0%	
Marubun-Arrow Mexico, S. de R.L. de C.V.*	MexicoCity, MEXICO	2014年9月	50.0%	
Marubun Arrow Europe Kft.*	Budapest, Hungary	2017年11月	50.0%	
株式会社ケイティーエル	東京都江東区	1966年11月	100.0%	半導体・電子部品の仕入販売

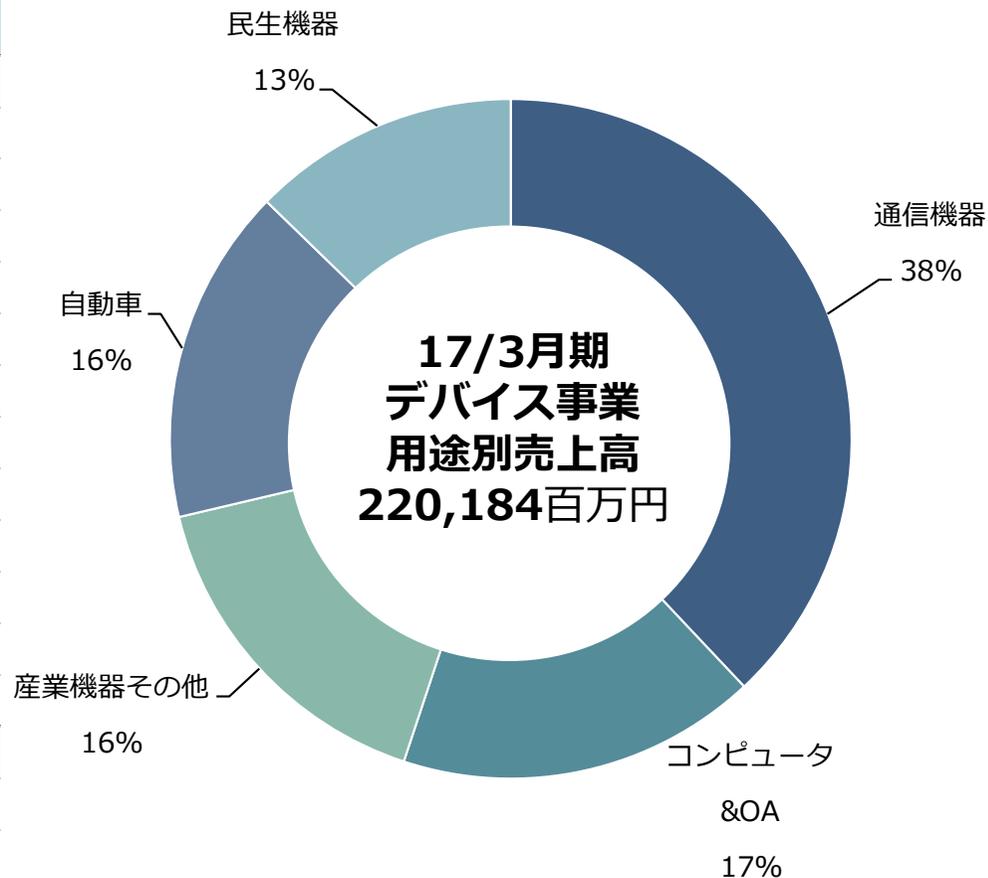
* Marubun/Arrow USA、Marubun-Arrow Mexico、Marubun Arrow Europe Kft.は持分法適用の関連会社です。

デバイス事業：取扱製品（サプライヤ別）

		サプライヤ（アルファベット順）															
		旭化成 エレクトロニクス	Broadcom (米国)	Cypress (米国)	Eink (台湾)	FINsix (米国)	IDT (米国)	Littlefuse (米国)	Maxim (米国)	Molex (米国)	Qorvo (米国)	Samsung (韓国)	SanDisk (米国)	セイコー エプソン	セイコー インスツル	TexasInstruments (米国)	
半 導 体	アナログIC	●	●				●	●		●				●		●	
	標準ロジックIC															●	
	メモリーIC	DRAM										●					
		フラッシュ										●	●				
		その他メモリー						●				●	●		●		
	マイクロ プロセッサ	MPU、MCU												●			●
		DSP	●														●
	特定用途IC	ASSP	●	●	●			●		●		●		●		●	●
		ディスプレイドライバ										●		●			●
		DMD															●
LED											●						
カスタムIC	●									●		●					
電 子 部 品	表示デバイス				●						●						
	水晶デバイス						●						●	●			
	コネクタ・スイッチ・プリント基板								●								
	モジュール製品					●											

デバイス事業：主要取扱い製品（用途別）

		通信機器	コンピュータ	産業機器	自動車	民生機器
半導体						
アナログIC	アナログ	●	●	●	●	●
	ディスクリート	●		●	●	●
標準ロジックIC		●	●	●	●	●
メモリーIC	DRAM	●	●		●	●
	フラッシュ	●	●			●
マイクロプロセッサ	MPU、MCU	●	●	●	●	●
	DSP	●		●	●	●
特定用途IC	ASSP	●			●	●
	ディスプレイドライバ	●	●		●	●
	DMD	●	●	●	●	●
	LED	●	●			●
カスタムIC		●	●		●	●
電子部品						
表示デバイス		●	●	●	●	●
水晶デバイス		●		●	●	●
コネクタ・スイッチ・プリント基板		●				●
モジュール製品			●		●	●



システム事業：特徴と強み

- ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- システム提案から据え付け保守まで、一貫した高レベルの技術サポート

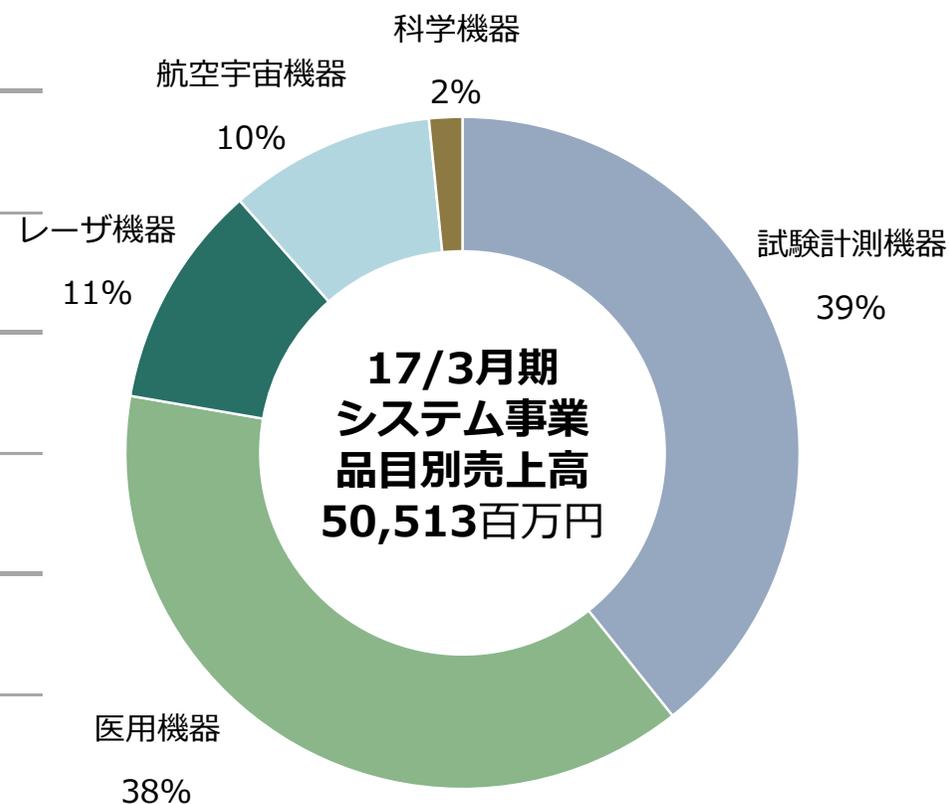


システム事業：グループ会社概要

社名	本社	設立年月	出費比率	事業内容
丸文通商株式会社	石川県金沢市	1961年3月	100.0%	医用機器および試験計測機器の仕入販売・修理・メンテナンス
丸文ウエスト株式会社	兵庫県神戸市	2005年5月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社北信理化	長野県長野市	1951年11月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社フォーサイトテクノ	東京都江東区	1999年3月	51.0%	システム製品の修理・メンテナンス、エンジニアリングサービス

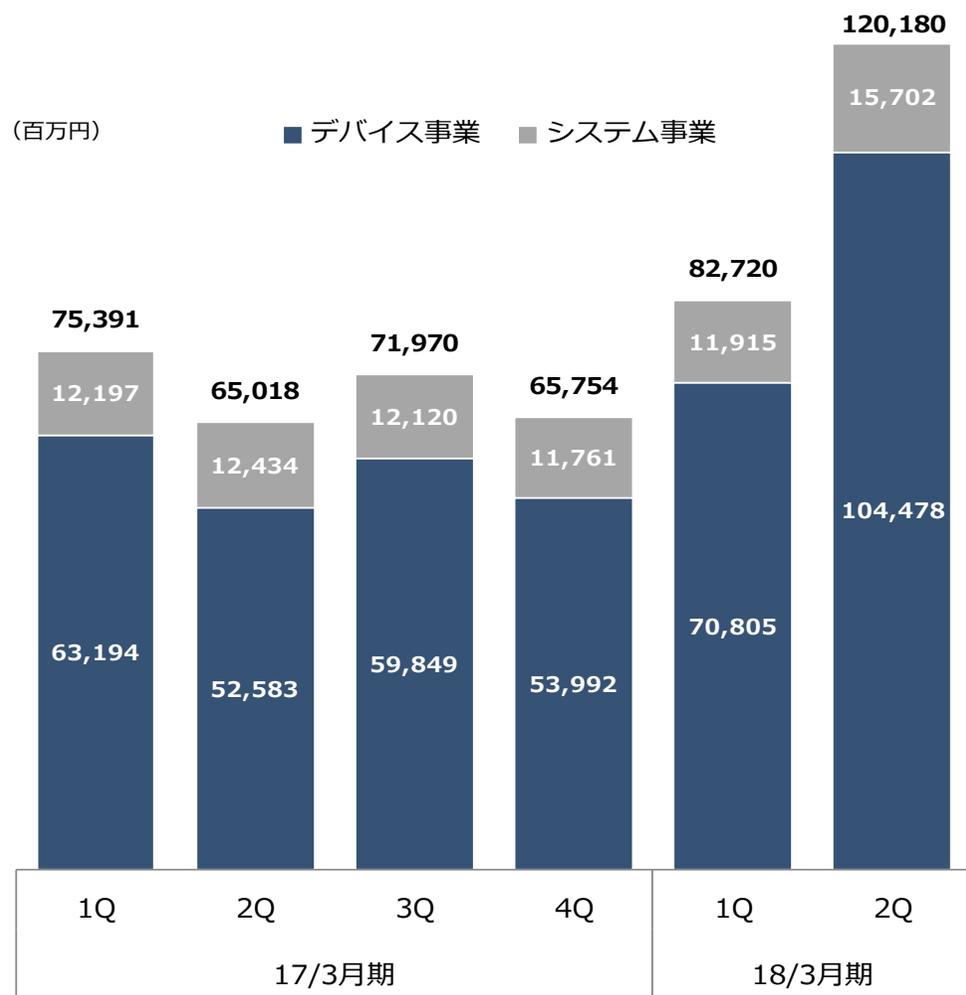
システム事業：主要取扱い製品

分野	主要取扱商品	主要仕入先
試験計測機器	検査・計測機器 組込みコンピュータ	アキム、島津製作所、 ADLINK、AITECH
	製造装置 組立装置	セイコーエプソン、 日本アビオニクス
医用機器	画像診断機器	シーメンス、島津製作所、 コニカミノルタヘルスケア
	人工透析機器	日機装、旭化成メディカル、 カネカメディックス
レーザー機器	半導体レーザー レーザー加工機	nLight、Laserline
	ネットワーク機器 光学部品	Microsemi、Calnex Solutions、 Excelitas Technologies
航空宇宙機器	高信頼性部品 計測・センサ	Tele Communication Systems、 Plascore、Lavision
	航空関連機器 高周波電子機器	CPI、L3 Communications
科学機器	MOCVD装置 MBE装置	AIXTRON、Riber

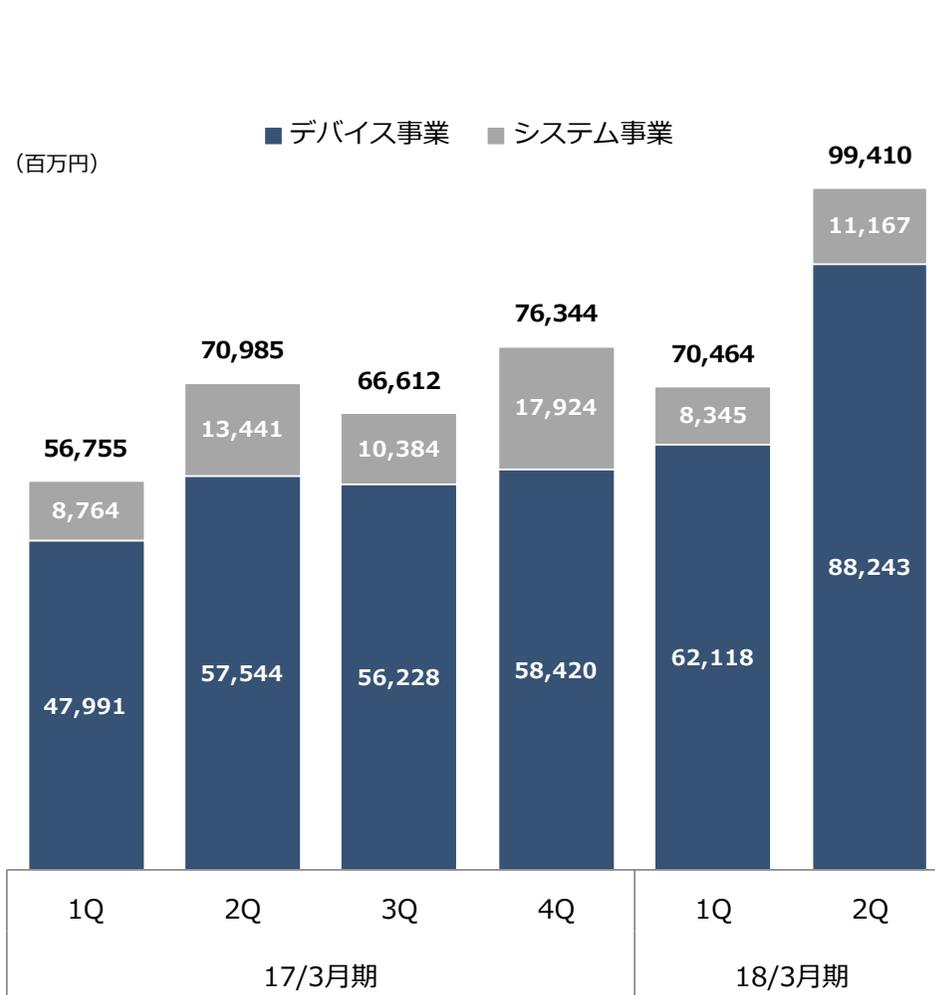


業績四半期推移（事業別受注高・事業別売上高）

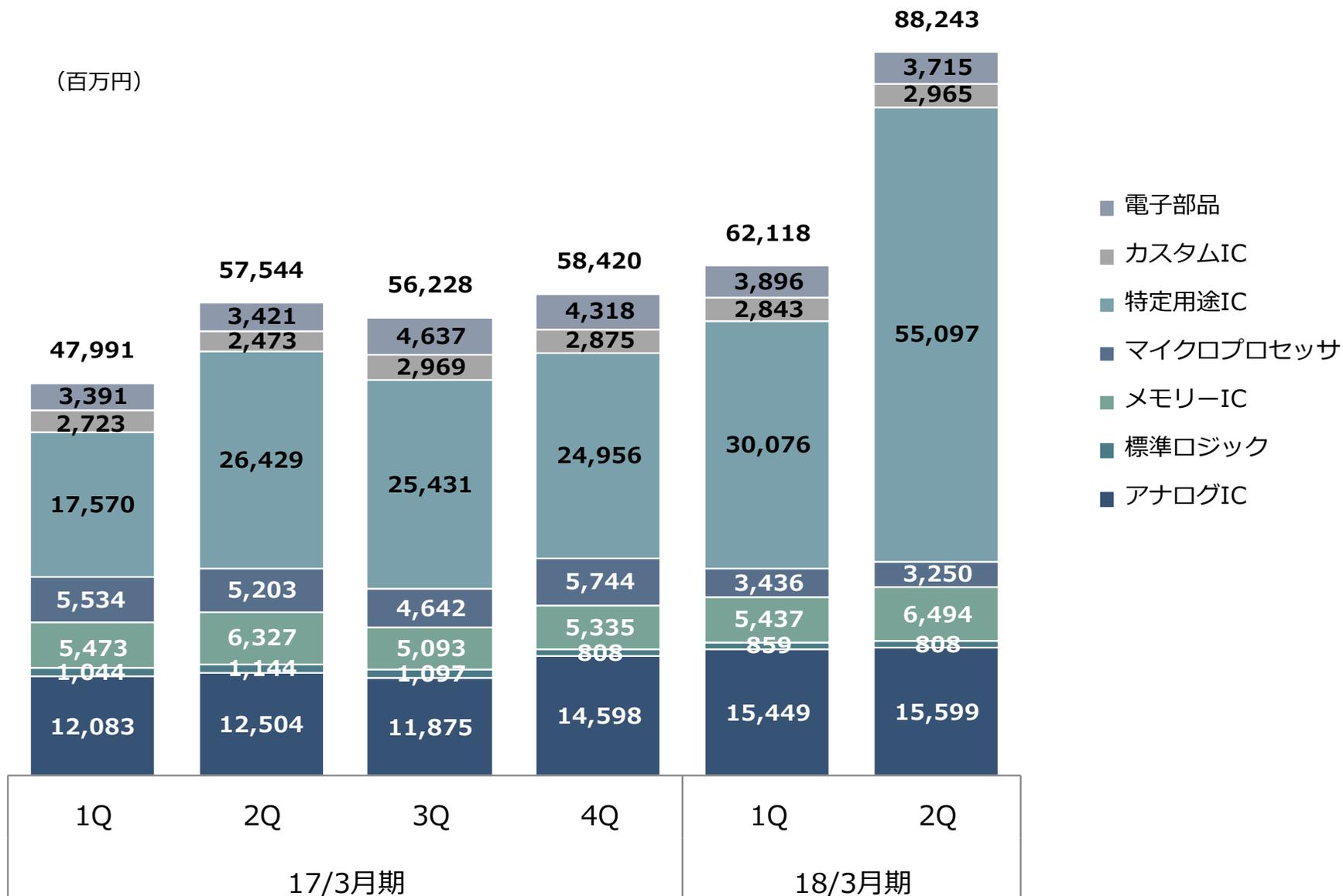
事業別受注高



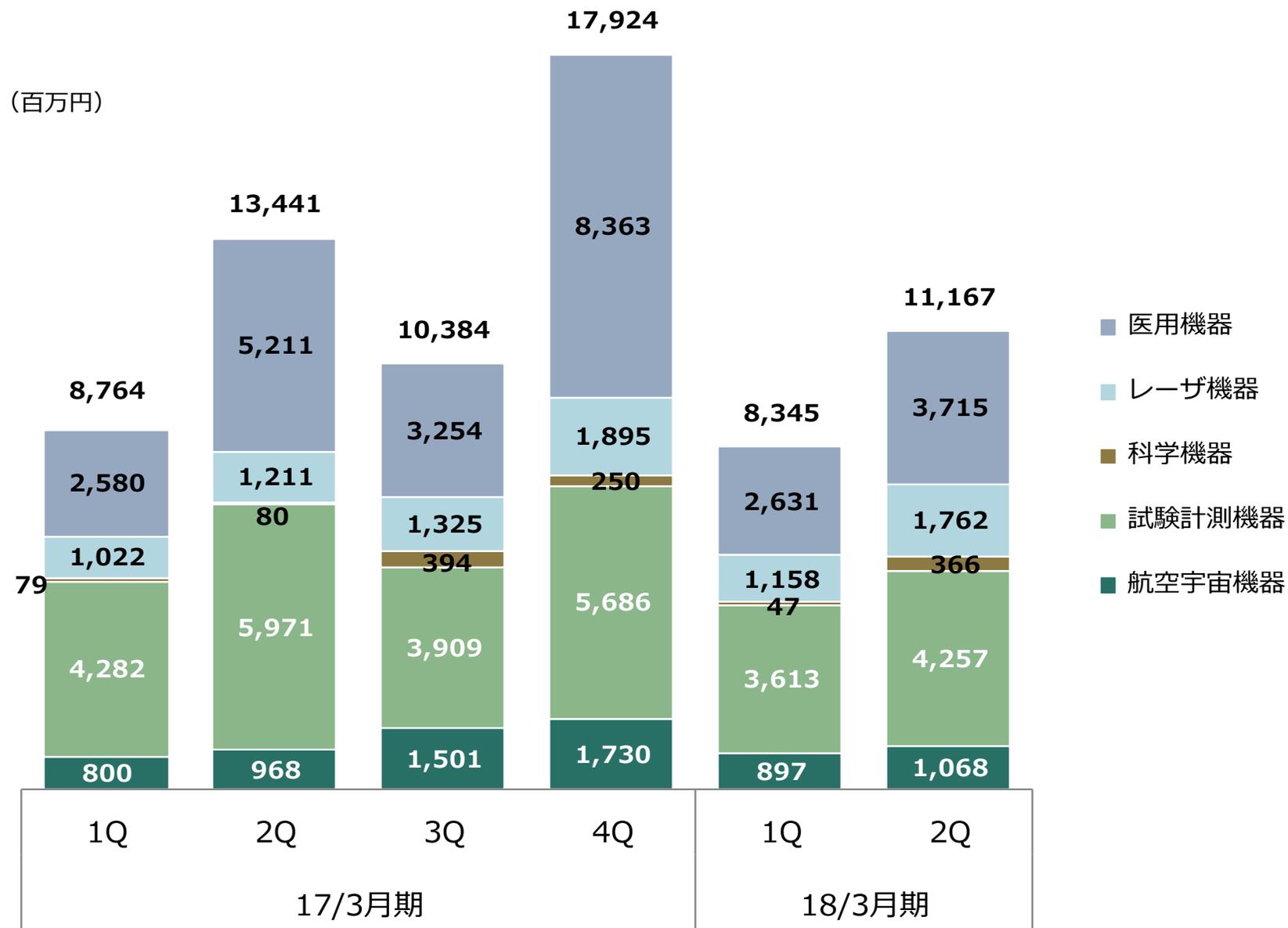
事業別売上高



業績四半期推移（デバイス事業：品目別売上高）



業績四半期推移（システム事業：品目別売上高）



本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性がありますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部

TEL 03-3639-3010

E-mail ir@marubun.co.jp